

こころ

第22号
帆秋病院だより
平成25年11月

新病院の建設工事が始まりました。



(起工式)

による杭打ちの儀が行われ、起工式は無事終了いたしました。

新病院は、免震構造を採用し、地震に強い病院、重要設備機器は上階に配置し、更なる安全対策を施しております。また、環境に優しい病院として、井戸水の利用、温泉水の有効活用などに配慮しております。医療設備機器についてもMRI(3テスラ)、CT、など最新機器を導入するなど最新の医療を提供してまいりたいと考えております。また、地域とのふれあいや地域住民とのふれあいを通じて健康作りを推進するため、地域交流センター(体育館)を併設

当院は、地域高規格道路「庄の原佐野線」の建設に伴って移転新築することとなりました。移転先は、現在地から約500m程南側に位置した大分市元町の国道10号線沿いの一画です。去る8月11日現地で起工式が執り行われました。起工式では、最初に神事が行われ、次いで理事長・院長による刈初の儀が行われ、次いで建設工事の施工者である(株)竹中工務店九州支店長による鍬入れの儀が行われ、次ぎに設計業者である(株)内藤建築事務所九州事務所長



(理事長・院長による刈初めの儀)

することとしております。

同一敷地内には、院内保育園(定員50名)を設置します。また、グループホーム(定員21名)も併設する予定です。完成は、平成27年2月28日、新病院の開業は、同年4月1日を予定しております。病床数については、現在と同じ446床です。



(新病院完成予想図)

理念

奉仕

信愛

誠実

基本方針

- ・私たちは、患者さまの人格と意思を尊重し、思いやりのある心をもって接遇し、よりよい医療を提供いたします。
- ・私たちは、安全で安心と満足の得られる医療を提供いたします。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み医療の向上を目指します。
- ・私たちは、病院の運営に協力いたします。
- ・患者さまのプライバシーを保護します。

学会報告



第31回大分県病院学会が開催されました。

平成25年11月17日(日)、別府市山の手町の「ビーコンプラザ」で大分県病院学会が開催されました。開会に当たり実行委員長の
大分県病院協会副会長の松本文六先生が「本学会のメインテーマは『一隅に輝く病院をめざして』です。大分県病院協会の会員病院は社会に灯りをともし続けなければならないし、そのような病院をめざして創りあげるべく努力したいという意味を込めてメインテーマを『一隅に輝く病院をめざして』としました。

今学会も2,500人を超す会員病院の職員の熱気で満たされ、それぞれの病院にとっての明日に向かっての一里塚となりえるよう考えております。」と挨拶されました。

特別講演では、当協会会長の川島真人先生が『一隅に輝く病院をめざして ～歴史と災害に学ぶ～』と題して、「2011年3月11日に発生した東日本大震災で学んだことは人と人の“絆”ではないか、“チームワーク”が大事ではないかと思う。今回のような大震災という超一大事の中で我々が学ぶべきことは、強力な多様性と個性に富む人たちがお互いの能力を十二分に発揮しあうことができるような組織を作っていくことが、困難な時代に対応し、乗り越えるために備える最大の仕事になると思われる。」と話されました。

当院から次のテーマで発表しましたので報告します。



(会場の別府市ビーコンプラザ)

ちぎり絵って楽しい！ ～認知機能が低下した老年期患者の手作業を試みて～

看護師 中村 栄子

[はじめに]

当病棟は、70歳以上が半数以上を占めており、認知機能の低下、ADLの低下から要介助者も多い。今回、動作が緩慢で、活動が乏しく終日無為状態で過ごす患者さん10名をを対象に手先を使った作業を試みた。その結果、少しではあるが患者さんに変化が現れてきたので、ここに報告します。

[方法]

- (1) 毎日、対象者に声かけし、Dルームでのちぎり絵の導入を行う。
- (2) 興味を持っていない患者には無理強いせず傍で経過してもらう。
- (3) まずは、何も描いていない画用紙に自由にちぎり絵をしてもらう。
- (4) 次に下絵とちぎった折り紙の配色が合致するように言葉かけを行い、完成を目指す。

[結果]

最初は、離床がスムーズにいかず、ボーとした表情で折り紙を触るだけの人、折り紙自体にも興味を示めさない人、途中で席を立ちどこかへ行ってしまふ人もいました。

2週間経った頃から、患者さんから「明日もまたやるん?」「楽しいね」との言葉が聞かれ、笑顔も増えていきました。

集中力が続かなかった患者も、途中で席を立つことが殆どなくなりました。夜間も良眠でき、生活のリズムが整えられつつあります。

[考察]

紙をちぎったり、貼ったりという作業を毎日繰り返したことで、手先に神経を集中させる機会が増え、視覚、触覚などの感覚機能に日々刺激を与えることができたのではないかと考えています。

ちぎり絵は、認知機能が低下している患者さんにとって、比較的取り組みやすく、自然に指先の運動へとつながったと言えます。また、作業をすることは、一定時間、精神を集中させる注意機能を高める働きがあり、描かれた模様がちぎった折り紙を貼っていく過程でも、認知機能を高める働きができたと考えます。

昔から慣れ親しんだ折り紙を使用することで、心理的にも安心感が与えられ、様々な色彩を使うことで、さらに感情の安定化も図られたといえます。

ちぎり絵のような手作業を毎日取り入れたことは、患者さんに「楽しい、又やりたい!」という気持ちが生まれ、よい結果につながったものと考えます。



第59回九州精神医療学会報告

第66回九州精神神経学会並びに第59回九州精神医療学会が平成25年11月7日(木)～8日(金)鹿児島市「かごしま県民交流センター」で開催されました。

当院から次のとおり発表しましたので報告します。

リハビリ卒業！へのアプローチ

高瀬恵美子(NS) 松枝登美子(NS)
櫛田 寿量(DR)

【目的】

当病棟は、抗精神病薬服用による排尿障害や多飲水、前立腺肥大等の諸症状により排泄に困難を抱えリハビリパンツの使用者が増加し、経済的にも患者の負担となっている。長期にリハビリパンツを着用していた一人が「普通のパンツをはきたい」と言いリハビリパンツに興味を示したことをきっかけに、リハビリパンツをはずす試みを行った。

排泄の意識付けが出来るように関わることで排泄以外にも変化がみられたので、ここに報告します。

【方法】

リハビリパンツを長期間使用している歩行可能な5名の患者を選び、各自の好きな色のパンツを準備。時間毎の排尿誘導、汚染の有無の確認、汚染持は不快を減らすよう素早い対応に努め、常に着替えを準備しておく。

【結果・考察】

使用する理由がそれぞれ違うため、同じように関わってはうまくいかないということに気づき個々の能力や、症状に応じて関わることに努め、5名中3名がリハビリパンツを卒業、リハビリパンツは、便利なアイテムであり、安易に使用していたが、パンツに対する患者の思いを知り、患者が抱える問題や気持ちに沿って対応に変化をつけた。

羞恥心を伴うため、本人の自尊心をいかに傷つけずに対応するかという看護の必要性今更ながら実感した。今まで見過ごしていた、尿や便に関連した皮膚トラブルや、飲水量の増加等にも着目でき、オムツ交換や、排泄指導に要する時間短縮にもつながった。トイレトレーニングという関わりを通じ、排泄の自立ができたことは、患者自身の成功体験として心に深く刻まれ、更に日々の生活の自信につながるのではないかと考える。

【おわりに】

羞恥心に関わる排泄行為に問題が起きると、患者は深く自尊心を傷つけられる。看護師は解決するために安易な方法をとりがちである。患者の健康な部分に目を向け、患者が一番に望むことは何か常に気を配りながら関わりを深めていきたい。

「肥満患者のBMIの変動と間食調査」

～肥満から普通体重への改善を目指して～

高橋 久子(Diet) 後藤 純子(Diet)
都留奈津美(Diet) 帆秋 孝幸(DR)

【目的】

精神科入院患者の肥満の要因の一つに間食の過剰摂取が指摘されている。

当院では、昨年入院患者の間食によるエネルギーを減らす対策として“間食の手引き”を栄養部で作成、また、売店における飲料コーナーのレイアウトも多職種で検討後変更した。H25年3月BMI調査の結果、肥満患者の割合はH24年3月17.6%からH25年3月は、16.3%に減少した。

今回、H24年3月からH25年3月まで在院した60名の患者のBMIの変動と間食エネルギーについて調査したので報告します。

【方法】

- (1) H24年3月時、BMI>25以上の肥満患者でH25年3月までの1年間在院した60名を対象にBMI等の調査
- (2) H25年3月(1)の60名の間食調査
- (3) (1)対象患者の活動状況等のアンケート実施

【結果】

H25年3月時、体格指数(BMI)を用いた60名の肥満度分類は次のようになった。

- (1) 18.5≤～<25 普通体重17名(約28%)
- (2) 25≤～<30 肥満1度42名(70%)
- (3) 30≤～<35 肥満2度1名(約2%)

また、間食エネルギー量は、H24年3月調査時と比較してH25年3月では、普通体重に改善した17名中12名は間食エネルギー量も減少している。

【考察】

今回、肥満患者が減少した要因としては、病棟看護師等の日々適切な間食指導と、多職種で定期的に栄養管理を実施、評価・検討した結果と推察される。

【結論】

当院の肥満患者の割合は、全国の精神科病院の精神病患者(統合失調症)の肥満割合21.9%に比べて16.3%と少ない。今後の課題として、開放病棟における肥満患者への間食指導(支援)を多職種と協働で継続し肥満の改善に努めたい。

帆っとセラピー

～精神科作業療法だより～

作業療法では、患者さんの社会復帰に向けて一緒に取り組んでいます。

皆さんこんにちは、日頃の生活の中で、規則正しい食事と適度な運動を行っていますか？
適度な運動は、身体面だけでなく、精神面にも大きく影響します。イライラしたり、何か不安な時に体を動かすと気分が良くなった経験はありませんか？

体を動かせば、心(精神)も動きます。体を動かさないと、イライラや不安を助長してしまいます。体と心(精神)は、関連しています。また、適度な運動は精神面だけでなく、体内に起こる代謝もよくします。そのことで、代謝異常が原因で起こる糖尿病・高脂血症への予防策にも繋がります。

高齢になるにつれて、体内の代謝が悪くなることを考慮すると、日ごろから適度な運動を習慣づけることが大事になってくるのではないのでしょうか？

規則正しい食事と適度な運動のバランスをとりながら、生活リズムを確立し、心身ともに健康的な体づくりを心掛けましょう。

ホイクア・ショートケアのご案内

～ 自立への歩みを支援いたします。～

外来通院をしている患者さんを対象に、スポーツやレクリエーション、園芸、話し合いなどのグループ活動を通じ、人と人が交流することにより、生活面や対人関係の改善、病気の再発防止を図り、健康的で明るい家庭生活の樹立など生活全体の質を高めてもらうところです。

○ 月曜日～土曜日 9:00～16:00まで お気軽にご相談ください。

訪問看護のご案内

当院では、医師の指示を受けた看護師や精神保健福祉士などの複数のスタッフが患者さんのご家庭を訪問して、ご本人やご家族の方と一緒に考え、より良い在宅医療について、お手伝いさせていただきます。

訪問した際には、症状や状態を把握し、生活指導、看護指導、お薬の飲み方などについて、懇切、丁寧に支援いたします。

○ 月曜日～金曜日(大分県内) 8:30～16:00
ご希望の方は、受付窓口までご相談ください。

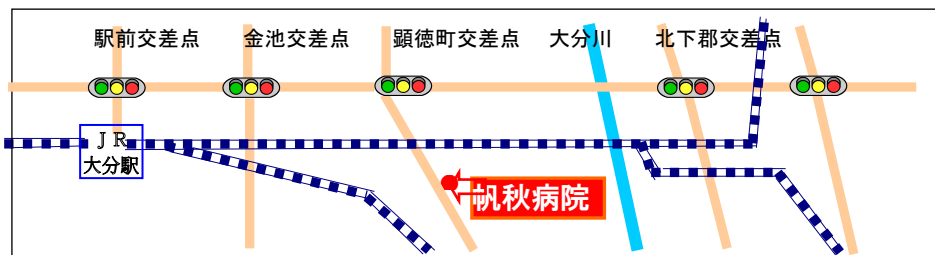
外来診療のご案内

- 診療日 / 月曜日～土曜日
- 休診日 / 日曜日・祝祭日(ただし、急患の場合を除く)
- 受付時間 / 午前 8:30～11:00
午後 13:00～16:00
- 診療時間 / 午前9:00～17:00

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜、祝祭日
午前	帆秋 孝幸 大隈 紘子	田代 信維 榎田 寿量 兼久 雅之	帆秋孝幸	堤 隆	東保みづ枝	田中 猛彦	休 診
午後	田代 信維 大隈 紘子	田代 信維 榎田 寿量 兼久 雅之			寺尾 岳 東保みづ枝	田中 猛彦	休 診

病院までのアクセス

- バス : 元町経由「東元町」下車
- 車 : 大分駅前から国道10号線を宮崎・犬飼方面へ向かって約10分
- JR : 大分駅からタクシーで約10分



発行日 / 2013年11月
住所 / 〒870-0843
大分市大字大分4282-1
(元町6組)

医療法人至誠 帆秋病院

精神科・心療内科
内科・歯科

TEL 097-543-2366
FAX 097-543-0664

編集後記

寒気の流れ込みや放射冷却の影響で、大分県内は厳しい寒さとなり、大分市内でも初霜を観測したそうです。今年の冬も寒い冬となりそうです。風邪など引かないように身体には十分気をつけましょう。

さて、自転車同士や、歩行者との衝突事故などを抑止するため、自転車の進行方法についてのルールが12月1日から改正されます。改正法では進行方向から見て右側の路側帯での走行が禁止されます。違反すると、3ヶ月以下の懲役か5万円以下の罰金が科されます。自転車通勤の皆さん気を付けましょう。

広報紙「こころ」22号を発行することができました。ご意見ご感想をお寄せください。